決算説明資料

2019年5月期　決算期（2018年6月1日～2019年5月31日）

TVアニメ「銀河英雄伝説Die Neue These」

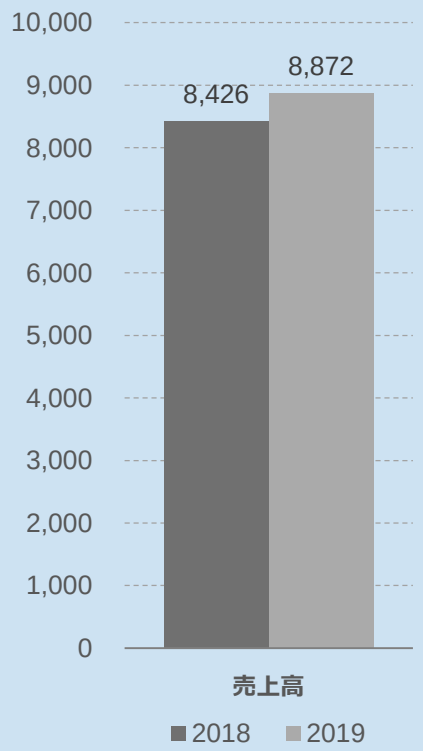
劇場版アニメ「PSYCHO-PASS サイコパス Sinners of the System」

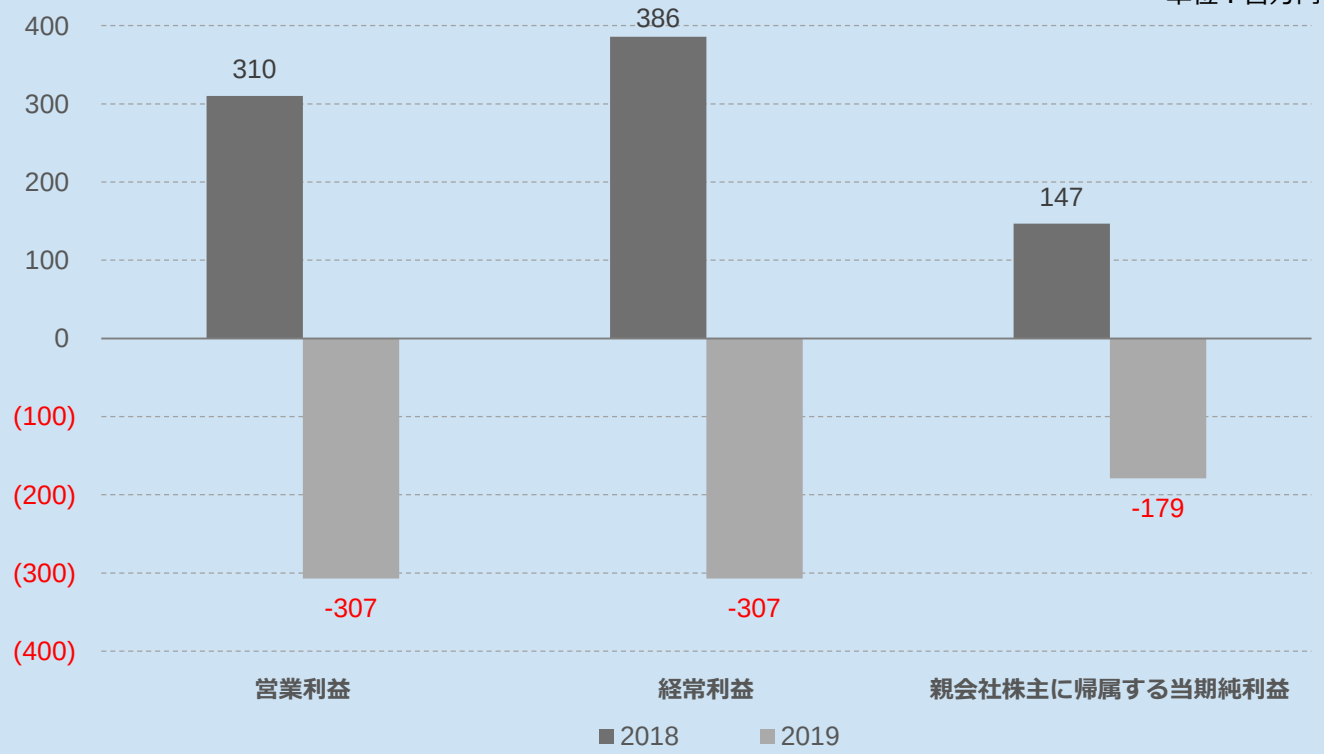
©田中芳樹/松竹・Production I.G
©サイコパス製作委員会

本資料には当社及び当社の関係会社・出資先企業の見通し、目標、予想数値など、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の業績は今後の事業運営、経済情勢、金融市場その他の状況変化等さまざまな要因により大きく異なる可能性があります

2019年5月期 連結決算概要（前期比較）

単位：百万円





- 当期は増収減益で着地しました
- 当期は前期同様に、翌期以降に発生する受注損失引当金を計上したため、利益面では赤字で着地しました
- 親会社株主に帰属する当期純損失につきましては、当期第４四半期会計期間に子会社（ジーベック）の映像制作事業の譲渡による特別利益264百万円のほか、特別損失として子会社の減損損失135百万円を含んでおります

セグメント別の売上高及び営業利益

		事業セグメント				合計
		映像制作事業	出版事業	版権事業	その他事業	
売上高	当期	5,925	1,266	1,451	227	8,872
	前期	4,596	1,734	1,780	313	8,426
	増減	1,329	-468	-328	-86	446
	増減%	29%	-27%	-19%	-28%	5%
営業利益	当期	-538	131	190	2	-214
	前期	-686	385	687	14	401
	増減	147	-253	-496	-12	-615
	増減%	-	-66%	-72%	-85%	-

翌期以降に発生する受注損失引当金を計上したため、当期と前期は大きな赤字となっております。

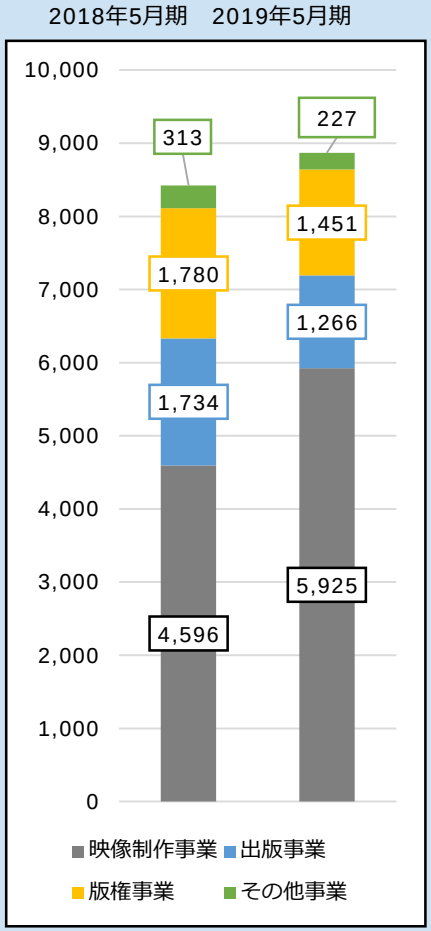
人気既刊コミックス「魔法使いの嫁」のアニメ化による需要が一巡したことにより、売上が前期より大きく減少しました。

複数シリーズの映像マスター償却が新たに発生するほか、戦略作品「魔法使いの嫁」の放送・海外販売が終了したことにより、売上高・営業利益ともに前期より減少しました。

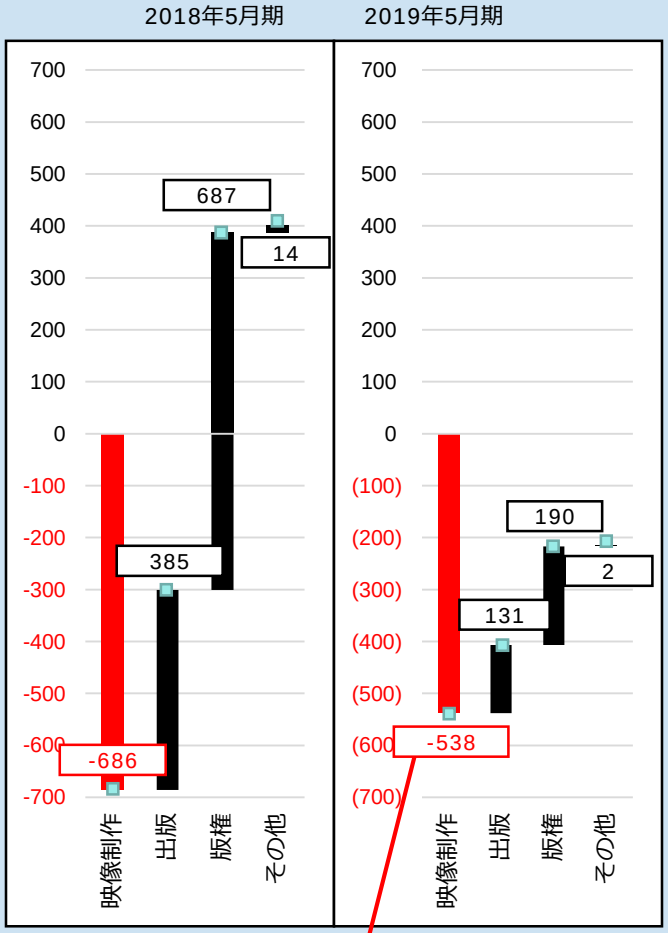
単位：百万円

2019年5月期連結決算概要（前期比較）

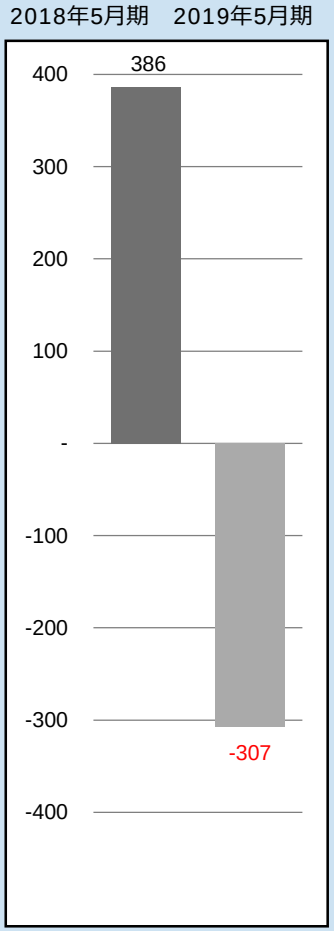
売上高



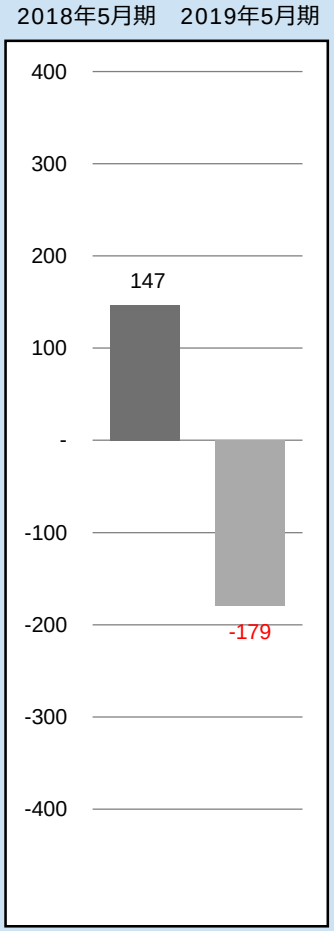
営業利益



経常利益



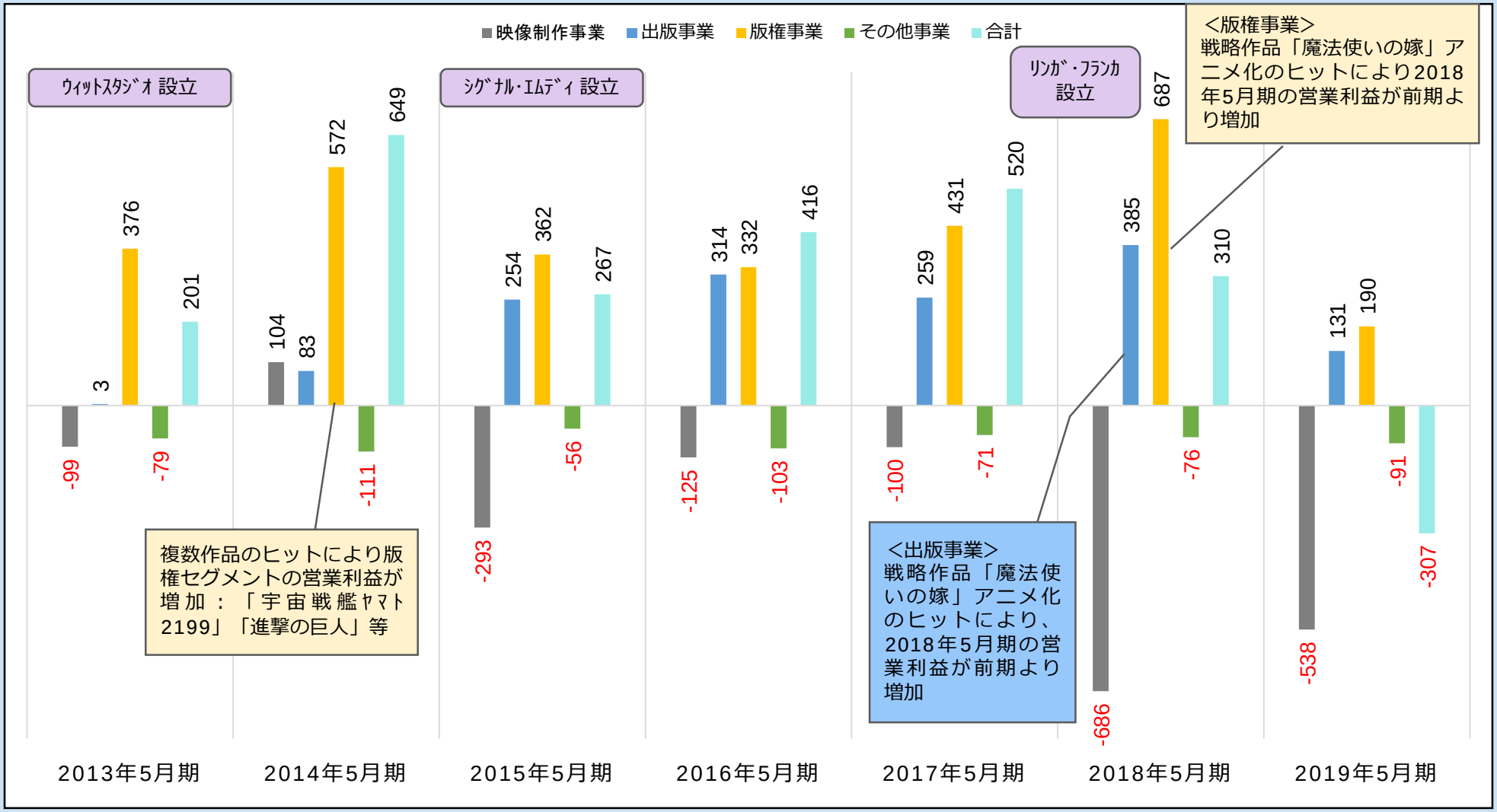
親会社株主に帰属する当期純利益



映像制作事業において、2020年5月期以降に発生する受注損失引当金を2019年5月期に計上したため、大きな赤字となりました。

単位：百万円

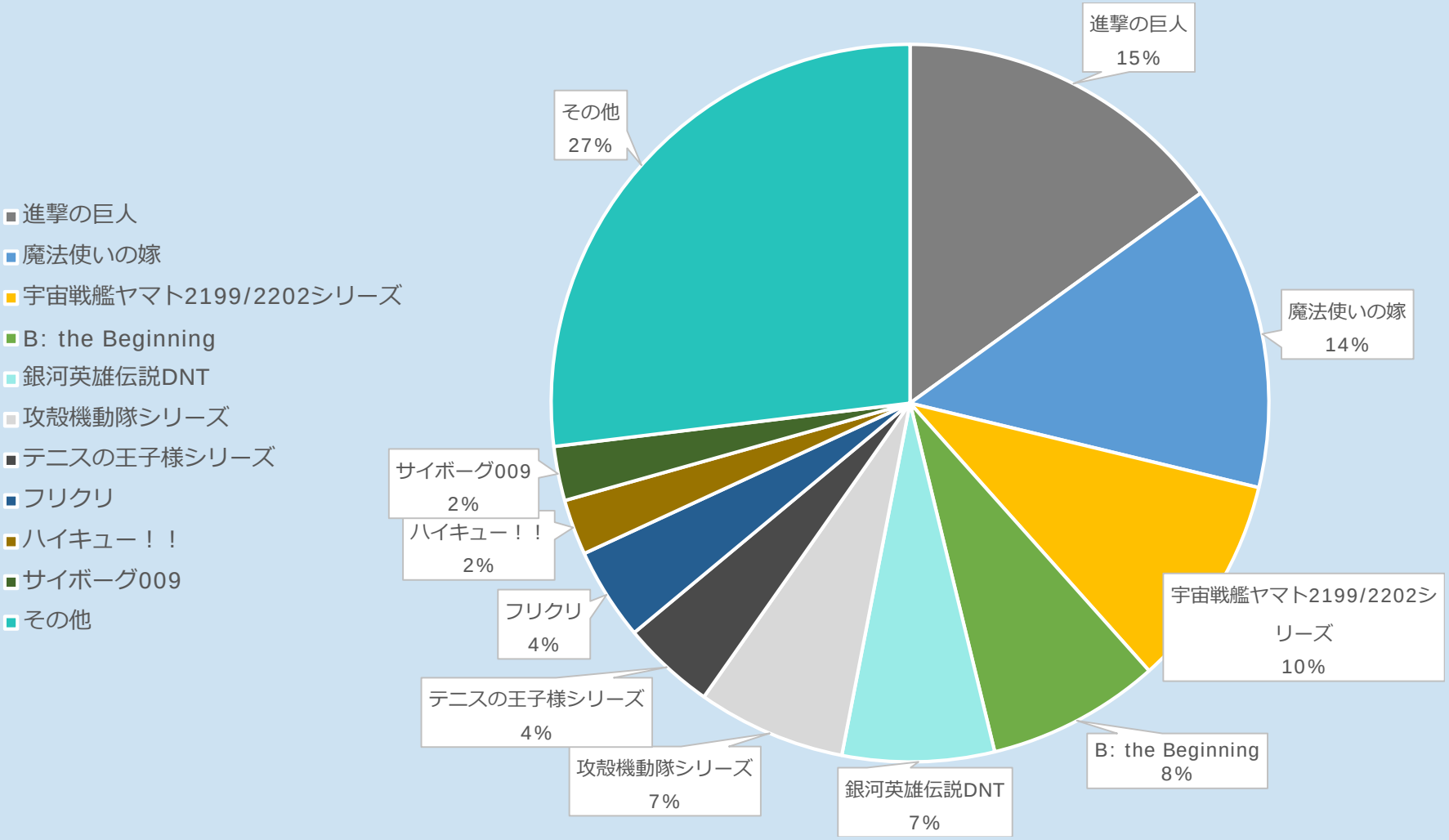
セグメント別の営業利益（年度推移）



単位：百万円

※¹その他事業にのれん/全社費用を合計計算しているため、決算短信上のその他セグメントの数値と異なります
※²合計値は連結財務諸表の営業利益となります

タイトル別の版権売上高構成

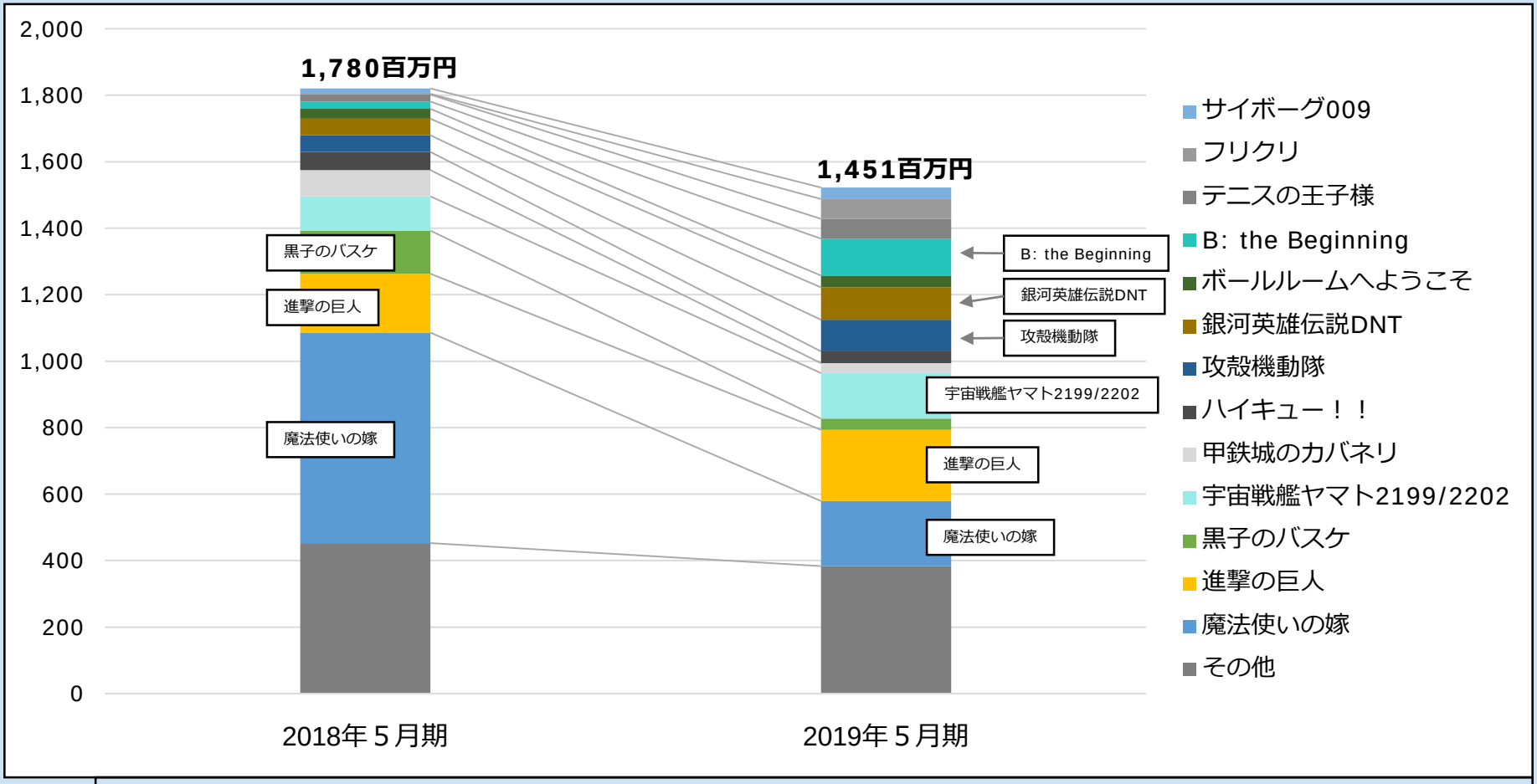


（2019年5月期）

- 「進撃の巨人」シリーズ、「魔法使いの嫁」、「宇宙戦艦ヤマト2199/2202」シリーズが版権収入TOP3を占めております

単位：百万円

＜版権収入売上高推移＞ 連結決算概要（前期比較）



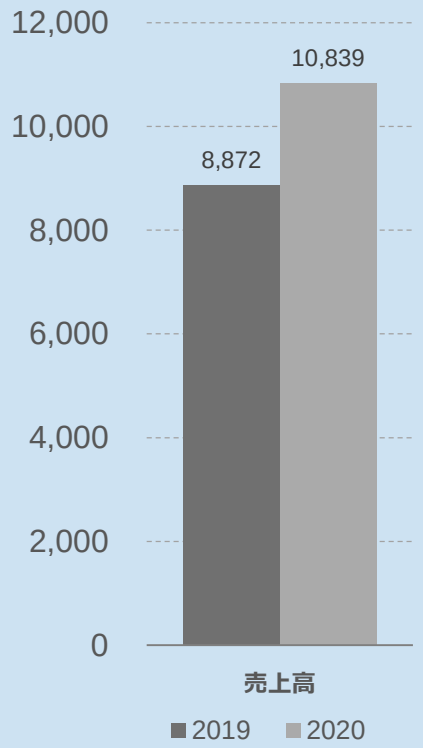
（2019年5月期）

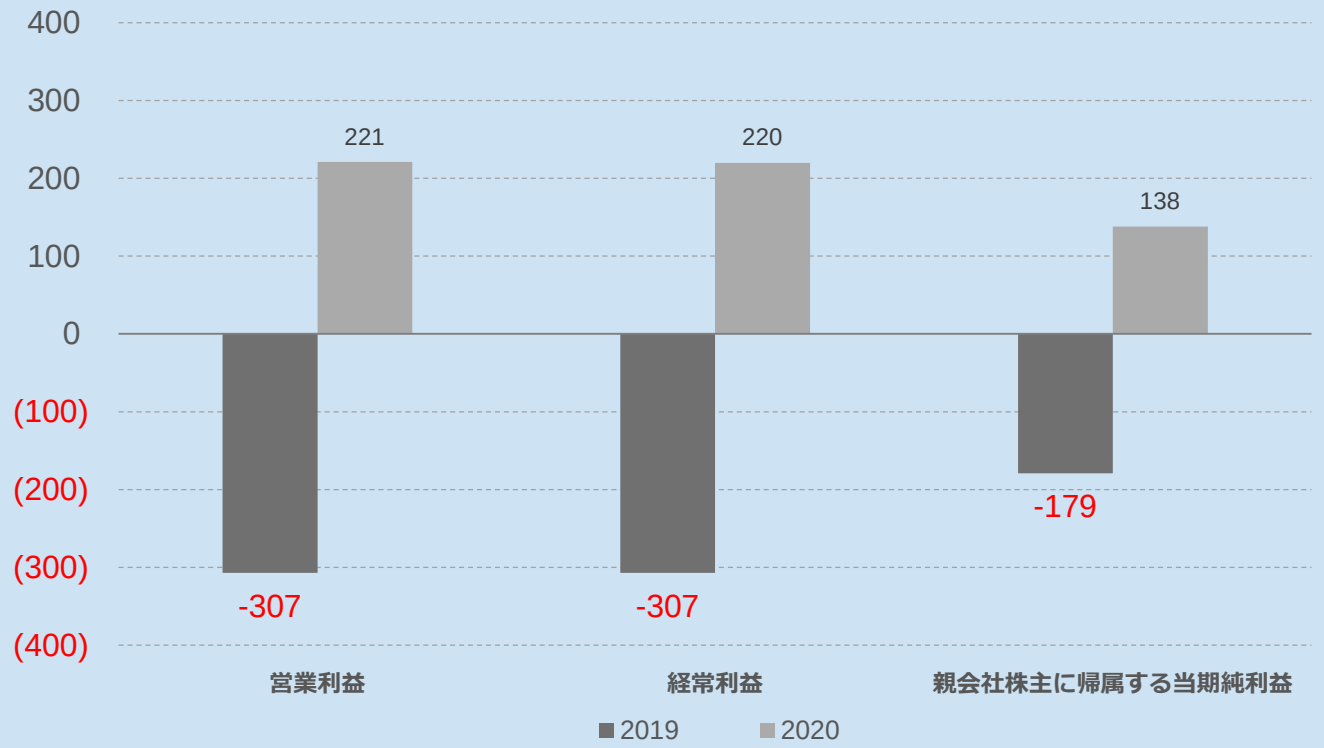
- 「進撃の巨人」「宇宙戦艦ヤマト2199/2202」の収入は前期に続き堅調
- 「黒子のバスケ」「魔法使いの嫁」は放送終了のため、前期と比べ、収入が大きく減少しました
- 「銀河英雄伝説DNT」は12話ずつ放送・公開の構成のため、版権収入の計上が複数年に渡る見込みになっております

2020年5月期
業績予想

2020年5月期 業績予想

単位：百万円





2020年5月期予測ポイント

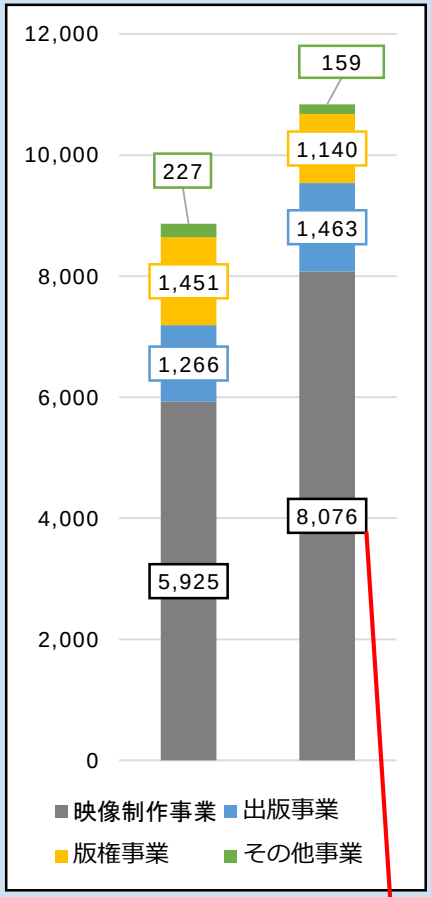
・大型作品の納品が予定されており、売上高が100億円突破の見込

・利益面では黒字転換の見込

2020年5月期 業績予想

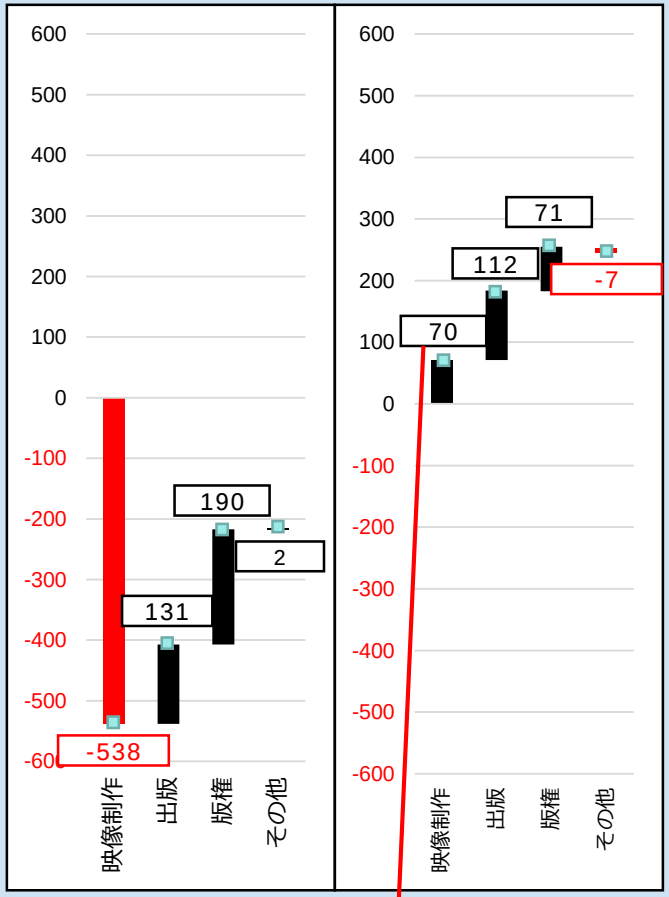
売上高

2019年5月期　2020年5月期



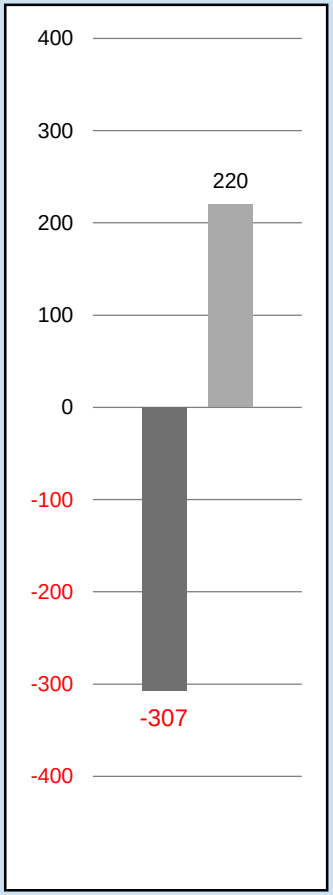
営業利益

2019年5月期　2020年5月期



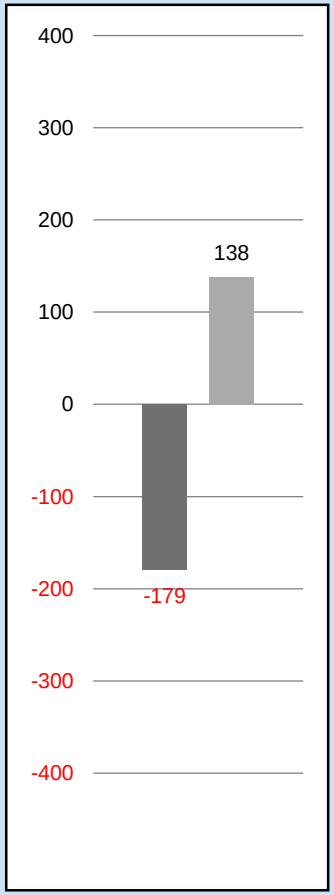
経常利益

2019年5月期　2020年5月期



親会社株主に帰属する当期純利益

2019年5月期　2020年5月期

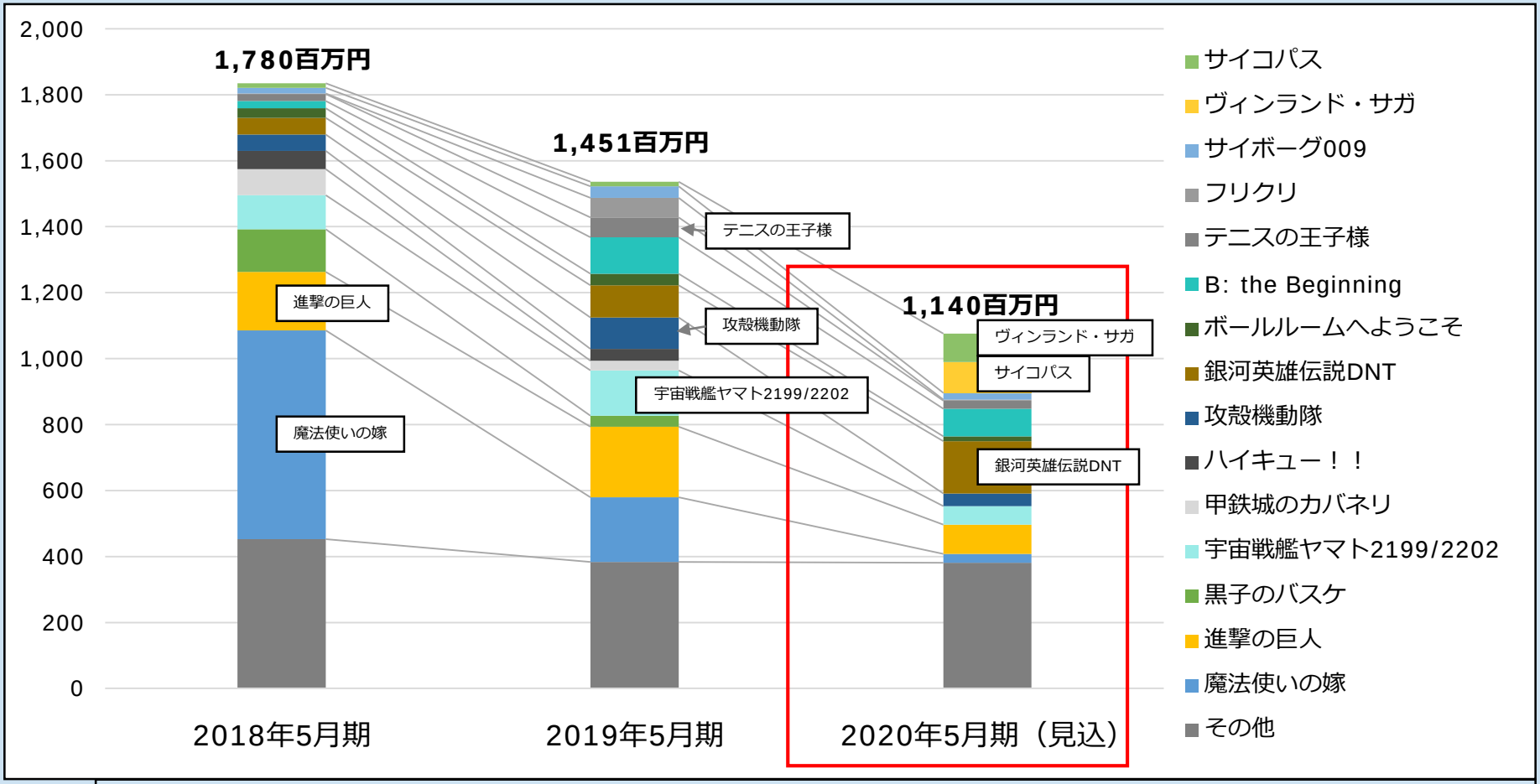


2019年5月期納品予定であった一部シリーズ作品が2020年5月期に期ずれ納品する見込みです。

粗利率が高く見込める複数のシリーズ作品の納品があるため、映像制作事業の営業利益は５期ぶりの黒字見込みです。

単位：百万円

＜版権収入売上高推移＞ 2020年5月期 業績予想



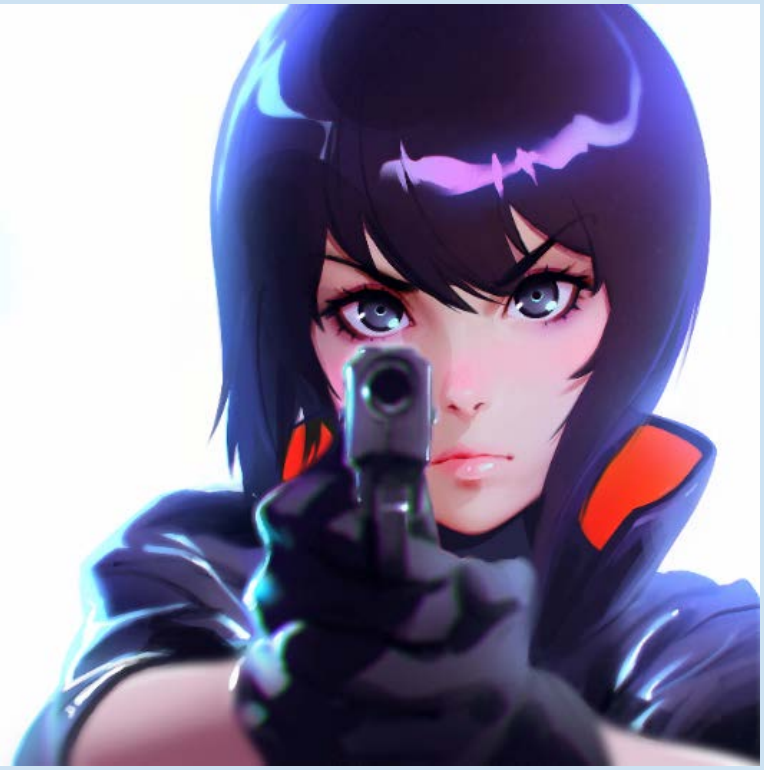
（2020年5月期）

- 戦略作品「魔法使いの嫁」と大人気シリーズ「進撃の巨人」は放送終了のため、版権収入が減少する見込みです
- 「銀河英雄伝説DNT」「サイコパス」シリーズ、「ヴィンランド・サガ」 は主な増収見込みタイトルです
- 「攻殻機動隊」シリーズ、「テニスの王子様」は依然堅調の見込みです

Topics

Topics＜Netflixとの取り組み＞

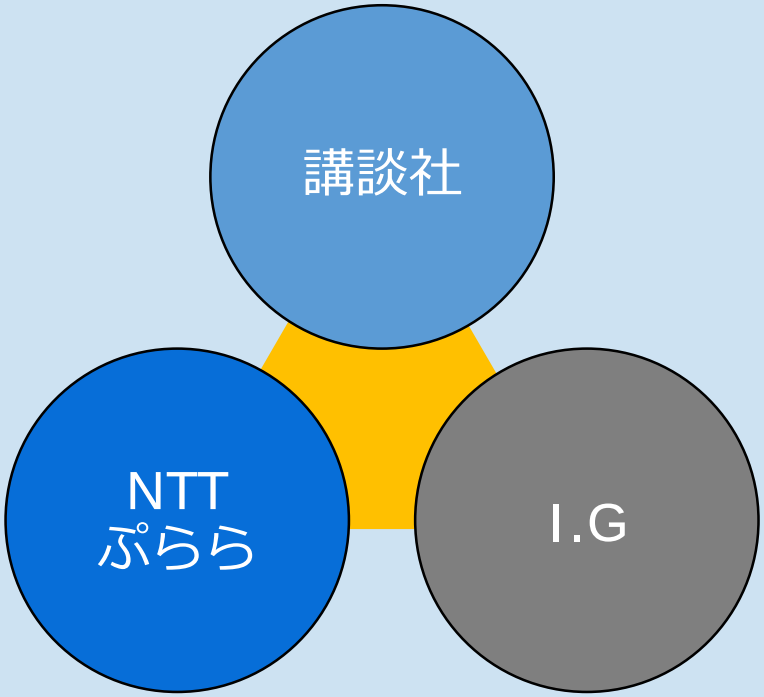
1. 『攻殻機動隊 SAC_2045』
   - 配信時期：2020年
   - 配信地域：全世界（中国本土除く）
   - 制作会社：Production I.G × SOLA DIGITAL ARTS
2. 『ヴァンパイヤ・イン・ザ・ガーデン』
   - 配信時期：未定
   - 制作会社：WIT STUDIO
3. 『ULTRAMAN』2nd Season
   - 配信時期：未定
   - 制作会社：Production I.G × SOLA DIGITAL ARTS
4. 『B: the Beginning』2nd Season
   - 配信時期：未定
   - 制作会社：Production I.G

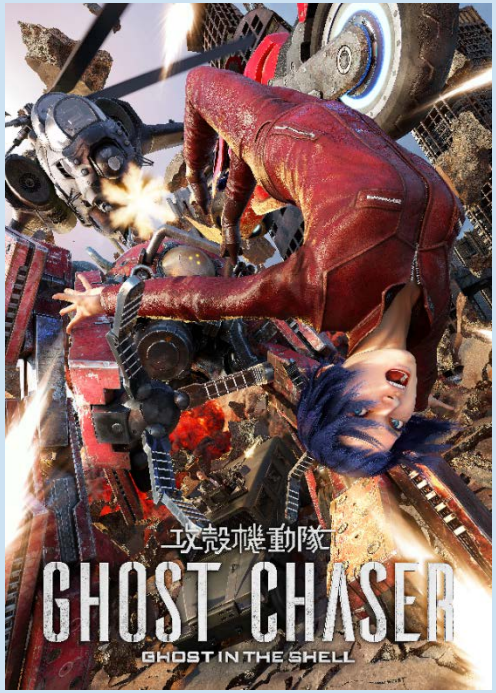


『攻殻機動隊 SAC_2045』
第２弾公式ディザーイメージビジュアル
©土郎正宗・Production I.G/講談社・攻殻機動隊2045製作委員会

Topics＜NTTぷららとの業務提携＞

- ＜株式会社NTTぷらら＞と資本業務提携契約を結び、＜株式会社講談社＞を含めて３社共同で、講談社が所有するIP『攻殻機動隊』『進撃の巨人』をもとに、アトラクション向けのＶＲコンテンツの企画・制作を行う予定です。
- NTTぷららは５G技術に関して積極的に取り組んでおり、来る５G時代で提供できるコンテンツを先駆けて持つよう、VRコンテンツの企画・制作に力を入れております。
- 当社はNTTぷららと共同で５G時代に対応するコンテンツの開発を共同で行っていきます。





©士郎正宗・Production I.G／講談社・「攻殻機動隊 新劇場版」製作委員会
©諫山創／講談社
©諫山創・講談社／『進撃の巨人　崩落の塔』製作委員会

Topics＜中期経営計画見直し＞

1. 映像制作事業における受注環境の変化

映像制作子会社におきましては、アニメーション制作企業の増加による受注競争の激化とともに高クオリティを維持するための制作期間長期化により、人件費及びクリエーター等の外注費が増加し、本事業における損失が増加の一途をたどっております。そのため、当該子会社の基幹事業である映像制作事業の利益を創出すべく、受注環境の変化に対応し、今後の受注作品及び生産体制に関して見直しを行うことにいたしました。

2. 海外市場の急速な変化

近年のアニメーション作品の販売先として、海外市場が大きなシェアを占める方向にあります。しかしながら、海外市場全体で表現規制の変化や販売先のビジネスモデルの変化等が生じており、今後の見通しが立てづらい状況となっております。従前に公表しておりました中期経営計画には、従来どおりの海外市場での販売を予定していた作品もあり、当社グループでは海外環境の変化により発生しうる計画への影響を精査中であります。

3. 収益認識に関する会計基準の改正

当社グループにおきましては、2018年3月30日に企業会計基準委員会より公表された企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」及び企業会計基準適用指針第30号「収益認識に関する会計基準の適用指針」に準拠すべく、監査法人と協議を開始しております。従前に公表しておりました中期経営計画は、当該新会計基準の適用前のため、適用後の修正中期経営計画を策定する必要があります。

新しい会計基準が適用される時期は2021年4月1日から開始する連結会計年度です。当社は2022年5月期に強制的に適用される見込みです。適用後、映像制作事業及び版権事業において、これまで一括で計上できた収入が、契約期間に応じて計上される可能性など、売上認識時期が変化し、事業年度毎の損益に大きく影響を及ぼす可能性があります。

今後について

中期経営計画の達成を目的として、本日発表しております「子会社経営管理プロジェクト」を開始するとともに、引き続き中期経営計画へ与える影響を精査し、判明次第速やかに公表いたします。

Topics＜“子会社経営管理プロジェクト”の立上げ＞

子会社Ａ
２期連続赤字転落の場合
※事業計画段階での赤字を含む

管理下に入る

子会社の経営管理組織
（経営管理プロジェクト）
を新設

メンバー：
郡司幹雄・栗本典博・他３名

プロジェクトは子会社の：
１、映像制作受注
２、作品出資
３、人事
４、予算策定
５、新規事業参入
６、子会社の新設
上記権限を持つ。

子会社の業務執行者は
その決定に従うこと

赤字が続く子会社の黒字転換を目指す経営管理組織の立上げを決定

本資料には当社及び当社の関係会社・出資先企業の見通し、目標、予想数値など、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の業績は今後の事業運営、経済情勢、金融市場その他の状況変化等さまざまな要因により大きく異なる可能性があります